



短歌募集

△課題 隨意

△切 毎月末日

△發表 本誌上

△賞品 三光に粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙隨意消書して左記の處へ送らるべし

但添削及返稿を望まるゝ方は往復葉書又は

切手封入のこと

「伊勢國白子局下稻生みどり短歌會」



短歌

起雲選

三十四

○ 鈴村 花子

すくひ上げし白百合の香に歌はなりぬ君がみ庭を回る小川に
夕鐘に牡丹くつるゝ夕べなり山のおちこちあやしくも湧く

○ 中川 龍

朝明けや若葉のすゑに月見えてすがしくも鏡流れ来る
花のせてながす筏はゆふ霧に消えてくれ行く河三十里

○ 吉川 紅花

笹蟹の糸にぬきては玉と見え思ひをつなぐさつきさめ哉
朝風にゆれてはこぼるふしの花ゆかりの色にわれ憧れぬ

○ 中村 鶴聲

搖ぎては玉と露ちる若葉かげあしたゆふべを歌に領する
融ぐまにまじりてやせし白百合を根ともうつつしてわれめでん哉

○ 岡野 艶子

乘にとはさみし花のいるあせて思ふ事ならず春くれにけり

○ 佐藤 翠川

人の世の幸にはぐれし身を寄すにふさはしきかな野の一つ家

○ 松田 小波

藤の花こぼるゝ水に影うけてこゝろなく飛ぶ雲のまじろき

○ なにかし

卵の花に雨ぼそふる窓の戸をひらくにも憂きわが聞えかな

○ 平 岩 繁 治

岡山のつちに果てんの運命なりやさはれ目しひの子等を思へば

○ 飯 塚 曉 霞

朝雲にひびりたか鳴く野をかけて春日うららに菜のはなさかり

○ 青 山 美 香

清水わくうらのきりたち青葉して畫なほ闇うあやし鳥なく

○ 吉 澤 小 雨

枕べのともしまたく此宵を瓶の勺薬はなこほれたり

○ 泰 白 浪

うつゝにて時々笑めるみどり兒にまたも泣かるゝわが運命かな

○ 大 西 益 子

冥府よりのつかひの聲か病室のしゝまをやぶる夕ぐれの鐘

○ 田 邊 學 洋

乳母が家の緋桃さきぬと告げこせし文見て泣きぬ病室の窓

大空に秘めしみうたのひと巻かあしたかゝやく石楠木の花

○ 清 水 光 風

馬子うたに裾野十里はゆふぐれて神代のゆめを見る景しき哉

うなだれて母に答ふる術もなうひと針づゝに思ひ縫ひゆく

○ 林 靜 子

亡き妹の日記をひもとく五月雨や兒をおもふ歌のいと多き哉

うつし世にかなはぬ望み胸にして悶ゆる夜なり鳴く子規
なつかしき友のおき文手にとらば怪しうふるうほつれ髪かな

○ 玉 尾 紫 水

白鳩はいらゝぎ回り子等はまた母にはべりて平和を見る
このまゝにいけても見たし朝露にくれなぬほこる勺薬の花

* * * * *

知るや人若葉の露にそぼめれていづみをめぐる夏あさの興
青葉づたひ子規なくこの宵を古りし琴柱にうた彫りつけぬ



めしよせて

今日のあつさを

けつり氷は

むかし身にしむ

おもものなりげり

(小杉 楓 軒)